

閑塵集 兼載

細川野州家にて、浦蛩

さ夜ふかきあし屋のさとにあまのたく
光りはきえてとぶ蛩かな

百首の歌の中に、鳥蛩

とぶほたる室のやしまにたえずたつ
けぶりをかりてもゆる影かな

蛩

草の葉のくちて蛩となりし色を
かへずやあをむ野辺の夕露

風渡る夏のの草の末葉より

おつるたよりにとぶ蛍かな

三条入道右大臣殿にて

よるももえひるもつきせぬともし火は
さゆりがしたの蛍なりけり

「国歌大観」より